

# 統一テスト 大阪の公立中で新年度から

# 内申書に活用 割れる教委

大阪府教委が公立中学校で導入をめぐって「統一テスト」が、新年度から実施されることが20日決まった。ただ、その活用方法を巡って、市町村教委の見解が割れている。橋下徹・大阪市長らの意を受け、府教委は近く、高校入試の合否に関わる中学の内申書を「絶対評価」から「相対評価」に切り替えるが、その公平性を保つ「ものさし」としてテストを活用するかが焦点になる。

# 市町村、府の方針に反対

20日、府庁近くのホテルで、府内43市町村の教育長らと府教委の意見交換会が開かれた。中原徹・府教育長は「統一テストを行う一番大きな趣意は学力向上。二次的に絶対評価に内在する公平性の問題をおさえるために使いたい」と新年度の試行実施に理解を求めた。統一テストは約15万人が対象で、1年で3教科、2年で5教科を、毎年1月に受ける想定。府教委は、低迷している学力の向上とともに、内申書の絶対評価の「ものさし」にするのが狙いとしている。

# 方法お任せ 大阪市反発

大阪府では全国で唯一、内申書に「絶対評価」を採用してきた。問題の発端は、橋下市長がその絶対評価を批判したことだ。府教委は「府がルールを規定しないなら、大阪市の中学生の最善のために動く」と言及。橋下市長が「それは市内全員に10を付けることだ」と追ったという。府教委幹部は「大阪市は結局、学校や教員を信用し

○メリット ×デメリット

絶対評価  
・教師が観点別に評価  
・学年末に5段階で評定 (指導要録)

大阪府  
相対評価に直す

3年時のみ記入  
10段階

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

○個人の努力を反映できる

○高い評定に偏りやすい

○地域により基準はらつく恐れ

○すべての学校で分布が統一

×同じ学力でも学校により評定に差

×周りに左右され、やる気をそぐ

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

市を除く31市でつくる府都市教育協議会が昨秋、反対の要請書を出したことを強調。府教委が昨夏に実施したアンケートでは31自治体が内申書に関連する特性は同じだと理解したい」と

府教委は12年8月の府教委会議で絶対評価の導入を正式決定。早ければ15年度実施の入試から見込む。テストについては、内申書に点数を書き込むのは「入試の前倒しになる」と否定。昨年11月、市町村の反発にも配慮し、活用方法は市町村に任せると発表した。ところが、今度は大阪市側が「公平性の担保にならない」と猛反発。府市の意見交換会で大森不二雄・市教育委員長は「府がルールを規定しないなら、大阪市の中学生の最善のために動く」と言及。橋下市長が「それは市内全員に10を付けることだ」と追ったという。府教委幹部は「大阪市は結局、学校や教員を信用し

でも学校のレベルで内申書に差がつき不公平」などと批判。大阪府教委が絶対評価の導入や統一テストの実施を府教委に要望した。内申書の元になる指導要録に絶対評価を導入するよう01年に国が通知したのを機に、全国では内申書も絶対評価への切り替えが進んだ。絶対評価と言っても、決められた観点別に教師が評価する。周囲の生徒のレベルに左右されず、本人の努力が反映されやすい。ただ、無制限で良い評定を付けることもでき、学校、地域によって評価基準がぶれる恐れも。そこで府内共通の「ものさし」として大阪府教委が提案したのが統一テストだ。

府教委によると、絶対評価の公平性を保つ方法として、統一テストを使っている都道府県はない。兵庫県教委は県内共通の評価基準を周知し、研修も実施。評定分布の事後検証もしている。担当者は「現場は評価の精度を上げるよう努め、県側は納得できるまで説明を求めて信頼関係を築いている」と話す。京都府教委も「公平性は学校ごとに常に検証してもらっている」といふ。(名知川輝)

中学通知表

統一テスト反映案提示

大阪府教委 学習態度など加味

大阪府内の公立中1、2年生を対象に新年度の3学期から実施予定の「統一テスト」について、府教委と市町村教委との意見交換会が20日、大阪市中央区のホテルで開かれ、府教委は、

「テスト結果を通知表に反映する基準案を示した。案によると、テスト結果と、1、2学期の中間・期末テストの点数や学習態度など合わせた数値を算出し、通知表の成績(5段階評価)の範囲とする。案で示されたイメージでは、「テストの得点が70点の場合、4、5の範囲で成績を付ける」ということになる。意見交換会には府内の全市町村教委が参加し、担当者からは「算出する方法がわからない」「3学期の評価が反映されないのでは」などの意見が出た。終了後、中原徹教育長は報道陣に「不参加の表明はなかった。おおむね了承が得られたとして進めていきたい」と話した。近く府教育委員会議で正式決定する。

統一テスト内申書に反映

大阪府教委、基準案を提示

大阪府内の公立中1、2年生を対象に来年度から実施予定の統一の学習到達度は20日、府内市町村教委に

入試の内申書に反映させるための基準案を示した。獲得した点数に応じ一定の幅を持たせた上で、基準案に沿って内申書の評定に反映させるとしている。

府教委が同日、市町村教委の教育長らとの意見交換会で提示した。

案によると、テストで100〜80点程度の点数を獲得した場合の評定は5▽90〜60点程度は4▽85〜35点程度は3▽70〜20点程度は2▽40点程度〜0点は1で、最終的な評定は、学習到達度テストの結果に加え、中間・期末テストや学習態度などを総合評価して決める。来年度は試行実施とし、平成27年度のテストから内申書に反映させる方針。

府教委は当初、内申書への反映方法を市町村教委に委ねる方針だったが、橋下徹大阪市長らから内申書への反映に統一基準を設けるよう要望が出されていた。府教委は早ければ28年度の府立高入試から、内申書の成績評価を絶対評価から絶対評価に切り替える。

絶対評価では成績が上位に偏る懸念があり、公平性を担保するために統一テストを実施し、内申書に一定程度反映させることを検討していた。

# 統一テストの活用

## 市町村教委に説明

### 府教委の意見交換会

府内の会立公立中学生を対象にした「統一テスト」を巡り、府教委は20日に開いた市町村教委との意見交換会で、絶対評価を導入した内申書の検証に使う際の考え方を提示した。一方、学向上策としてテストを行うこと自体には異論が出ず、22日の府教委会議で来年度からの実施を正式決定する。

府教委案では、中1、中2が1月に受ける統一テストの結果と、各学校が付ける2学期末時点の仮評定をクロス集計。統計的に分析したうえで、例えば「テストが70点の場合、その生徒の学年末評定は4か3か2を想定」といった「評定の範囲」を示す。学

校はその範囲内で評定を確定させ、事後に検証を行う組織も地区ごとに立ち上げる。

府教委は、早ければ15年度実施の入試から絶対評価を導入するが、現在の中1と小6が受ける来年度のテストは試行実施と位置づけ、内申書には関係させないとしている。

市町村側からは「3年の評定の公平性はどうか見るのか」「テストのない教科が保護者に軽視されないか」「試行をふまえて必要性自体を考えてほしい」といった懸念や要望が出された。  
(多知川節子)

# 統一テスト「内申書反映」

## 大阪府教委検討 17年入試にも実施

大阪府教委は20日、府内の公立中学1、2年生を対象に来年度始める「統一テスト」について、結果を通知表に反映させる案を明らかにした。さらに内申書への反映も検討している。高校入試の前倒しにつながる懸念が強い。当初は市町村教委に活用を委ねる方針だったが、橋下徹大阪市長らが内申書への反映を求めていた。早ければ2017年春の

入試から実施する。都道府県独自の学力テストは各地で実施されているが、府教委によると内申書に反映させる例はない。

府教委が同日、府内市町村教育長との意見交換会で示した。例えば統一テストの点数が80〜100点程度なら年度末の通知表が5▽60〜90点程度なら4―1などと「評定の範囲」を示す統一基準を府教委が作成、これを基に

各校が成績をつける。府立高入試の内申書の評価対象は現在、中学3年の成績だけが、府教委は1、2年生の成績も対象にするよう検討している。対象の拡大が実現すれば、統一テストの結果が内申書にも反映される。

府教委は、全国で唯一相対評価を採用してきた内申書を、早ければ16年春の入試から絶対評価に見直す。

【深尾昭寛】